

個人投資家説明会

Fly to the next stage!

説明資料

ヤマシンフィルタ株式会社
2024年12月14日



| ヤマシンフィルタの強み

建設機械の稼働に不可欠なフィルタ、多様なラインナップを建機メーカーに提供



Tier1メーカーとして、建機業界や顧客ビジネスに対するナレッジ・1次情報を豊富に保有、それらをもとに製品開発・最適供給することで顧客価値を最大化、トップシェアを誇る

POINT.1

建設機械分野でフィルタ製品を供給する

Tier1メーカー

POINT.2

建設機械用油圧フィルタ

世界シェアNo.1



国内における主要建機向け
油圧フィルタ売上シェア
(2012年度) 出典：矢野経
済研究所



全部門で業界・顧客の課題やニーズを把握することで、新たな顧客価値を最大化



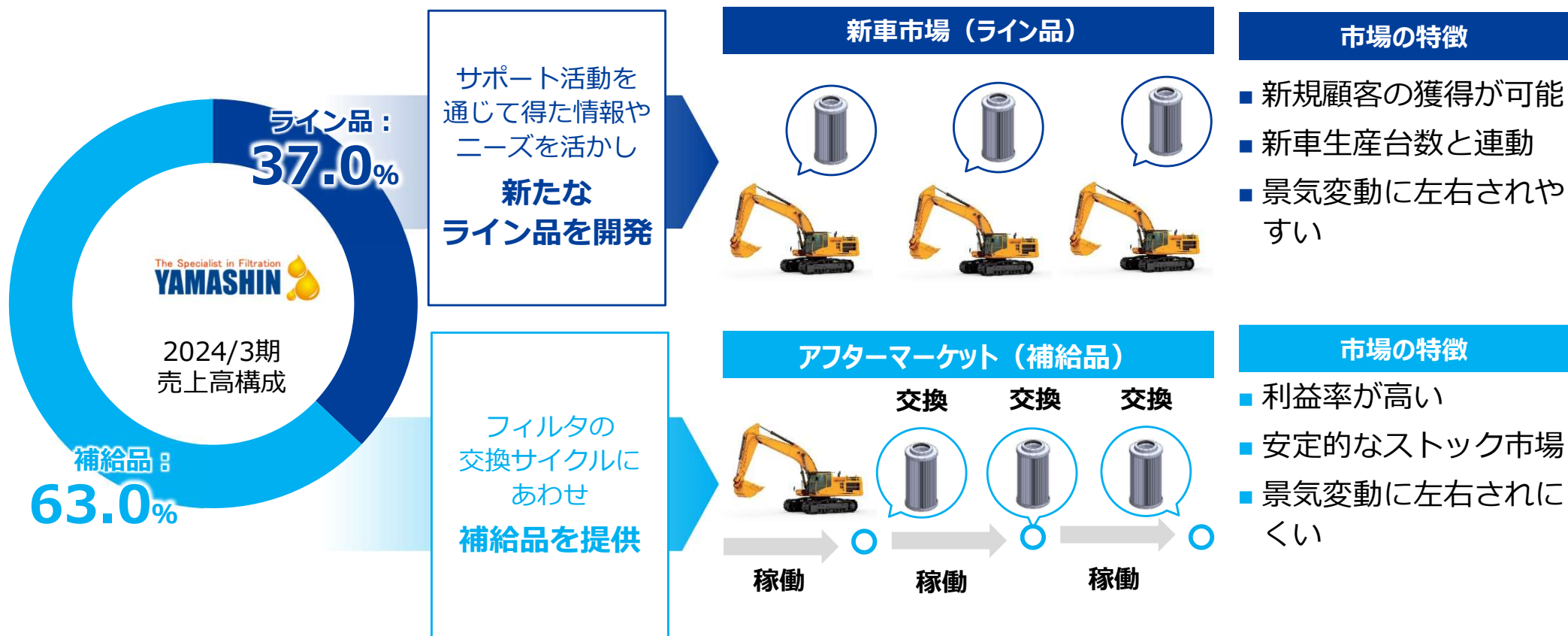
顧客ニーズを満たす
3つの強み



POINT.3

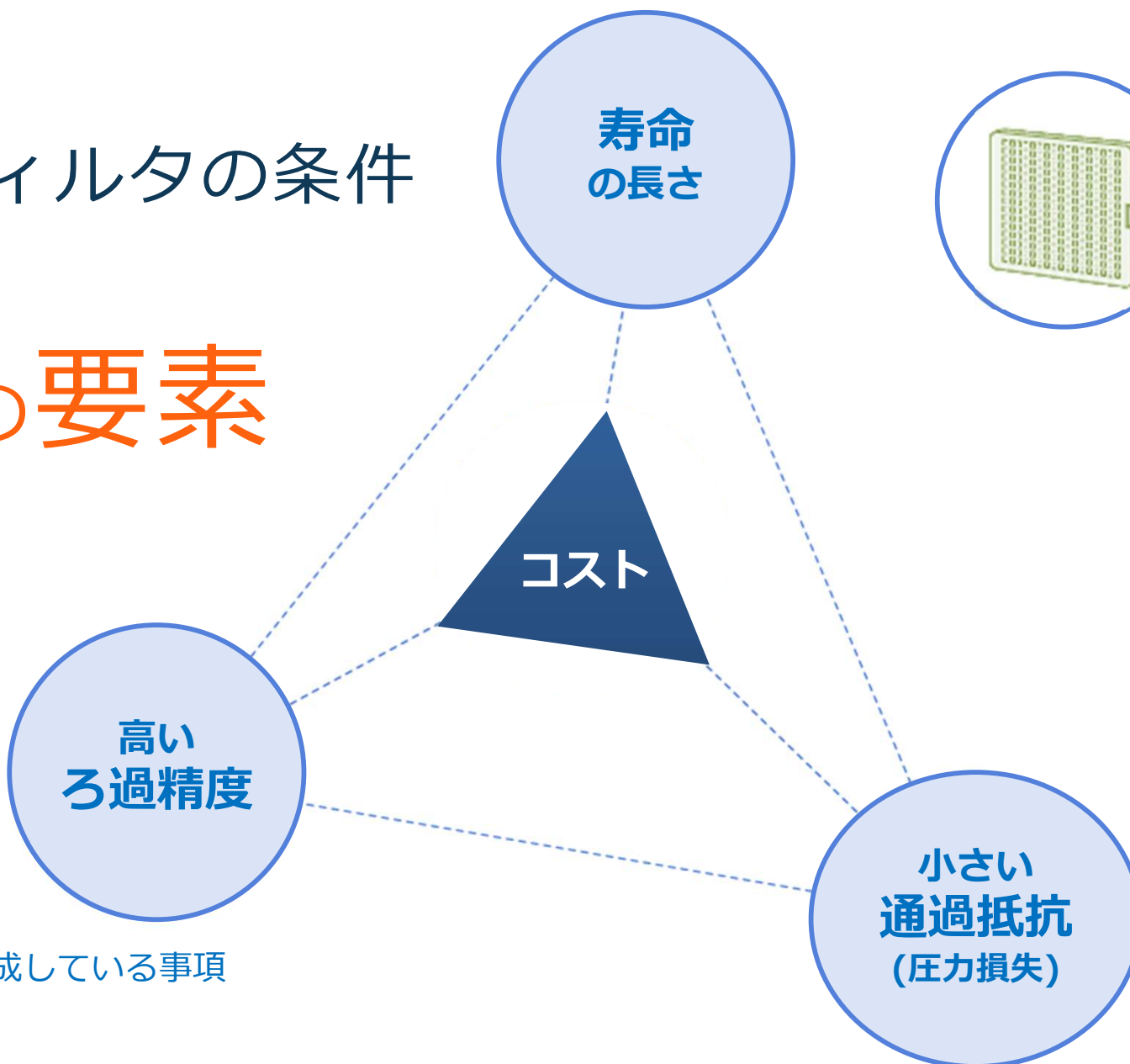
安定した補給品市場

新車ライン品と交換用のアフターマーケット補給品を組み合わせることで、安定した収益構造を実現
加えて市場の情報やニーズを把握し、新たな開発につながるサイクルを確立



良いフィルタの条件
である

3つの要素



○ すでに達成している事項

POINT.4 自社でろ材開発と供給

これまでも当社は先んじて建機業界のデファクトを牽引してきた実績がある
ガラス繊維に置き換わる次世代のろ材として、ナノファイバーを競合他社に先んじて導入を進める

これまで

社会の要請に合わせてフィルタのろ材に
こだわり、自社で独自の素材を開発し業界を
リード

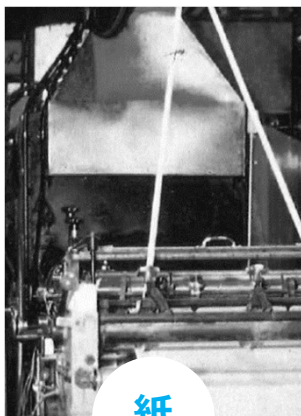
創業期



布

帆布製品の
縫製加工

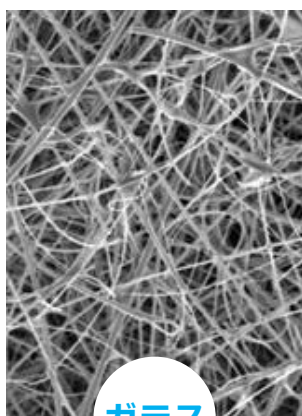
黎明期



紙

フィルタメーカー
として自社で
ろ紙を開発

発展期



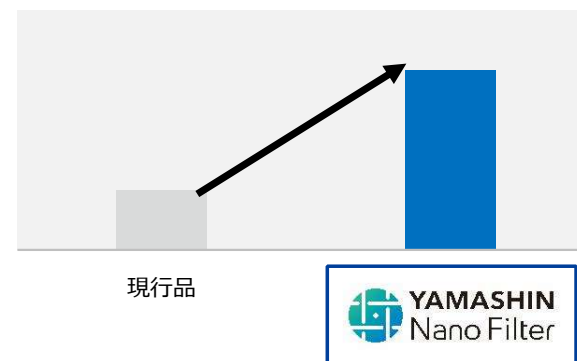
ガラス

ガラス繊維を用い
市場を席卷し
高いシェアを獲得

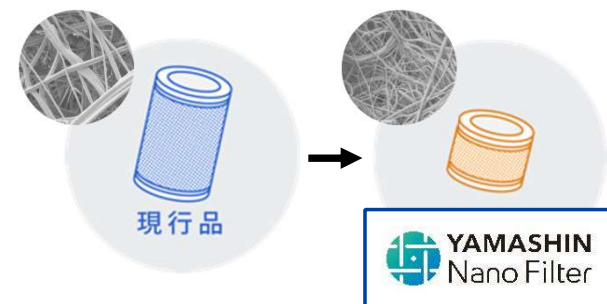
新製品

YAMASHIN Nano Filter™から生成される
ナノファイバ素材は、立体的な構造と加工の
自由度の高さが特徴

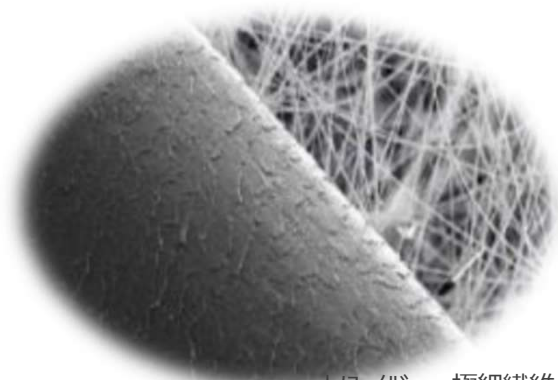
素材性能を活かし
現行品に比べ
**約3倍の
ダスト捕獲量**



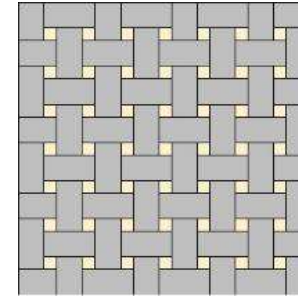
従来のガラス繊維の
製品と比較して
**約2倍の精度を
実現**



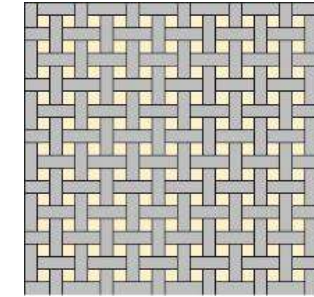
ナノファイバーとは？-Yamashin Nano Filter™



ナノファイバー：極細繊維 φ500nm
(髪の毛の約1/140)



マイクロファイバー



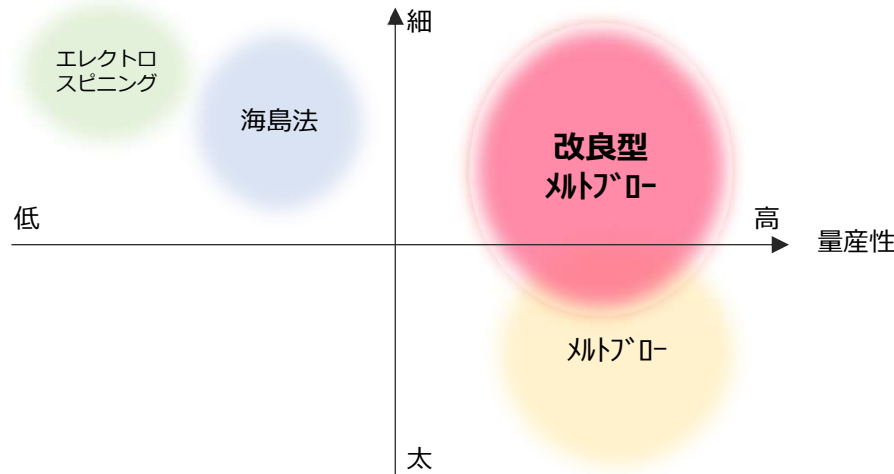
ナノファイバー

繊維径が細いと様々な効果が期待される

■ YAMASHIN Nano Filterの技術

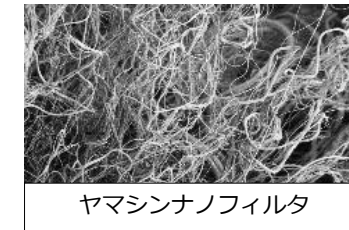
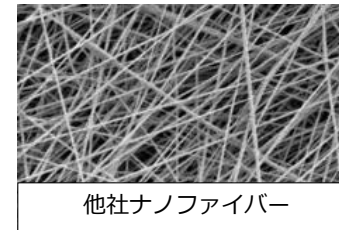
① コストパフォーマンスに優れたナノファイバー

「改良型メルトブロー法」という独自の生産方法で
圧倒的な量産性を実現 繊維径



② 当社独自技術によりシート化可能

繊維径分布と特殊な形状の融合により、
ファイバーを立体構造化し、嵩高さを作り出す



ナノレベルの繊維径で、
厚みのあるシート化は
ヤマシンフィルタ独自の技術。

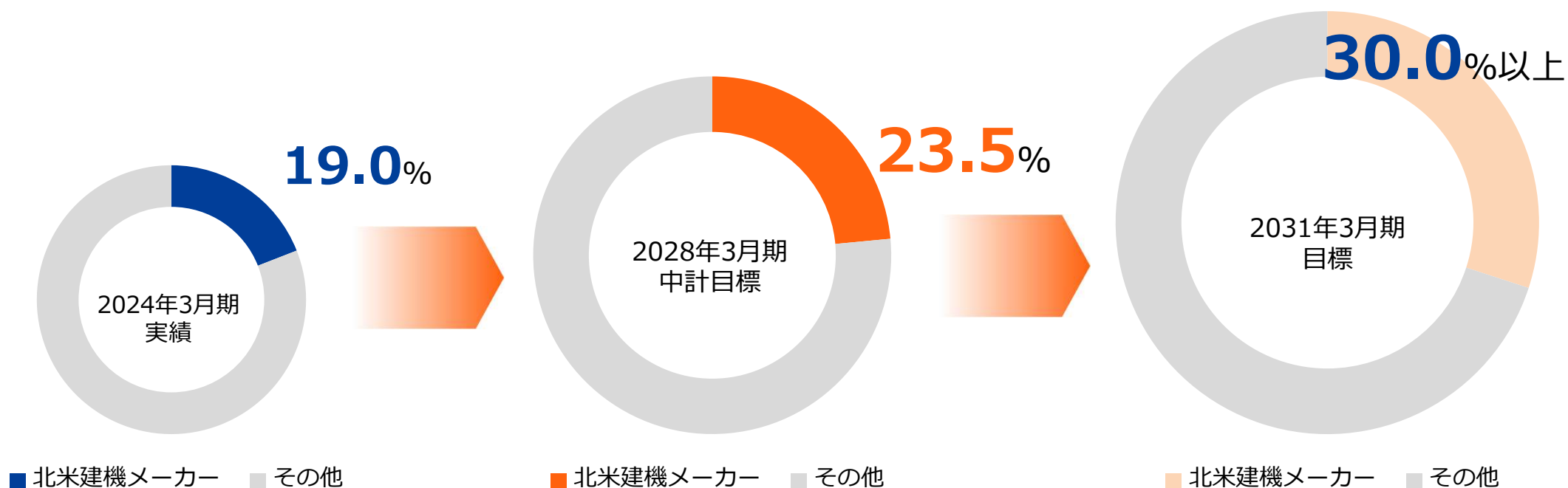


新たな価値創造の取り組み

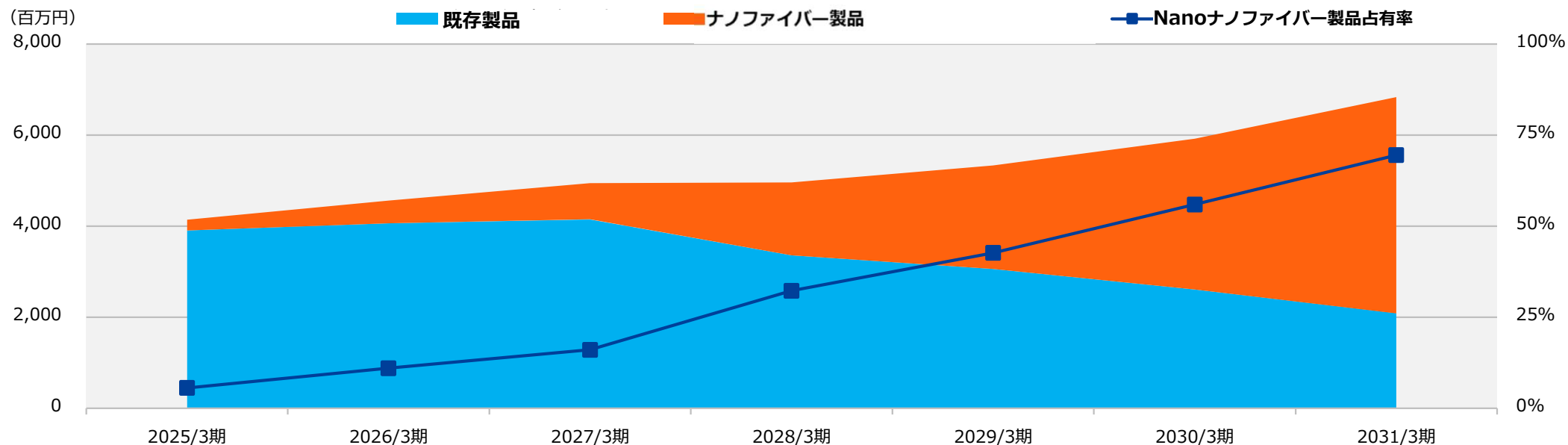
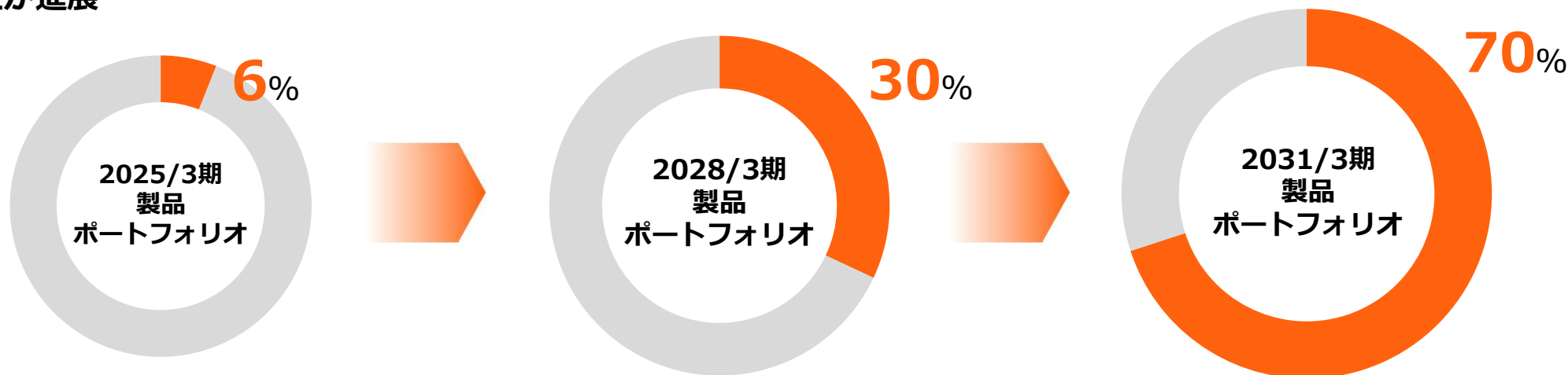
北米建機メーカー向け売上高構成比は、大幅な拡大を見込む



北米建機メーカー向け売上高構成比



既存製品からナノファイバー製品への置換えが進展、中計期間最終年度には約30%、2031/3期には70%まで置き換えが進展



当社はまだ一部分しかリーチ出来ていないが、アフターマーケット市場には大きな開拓余地があり

市場データ
単年度、5年間販売台数

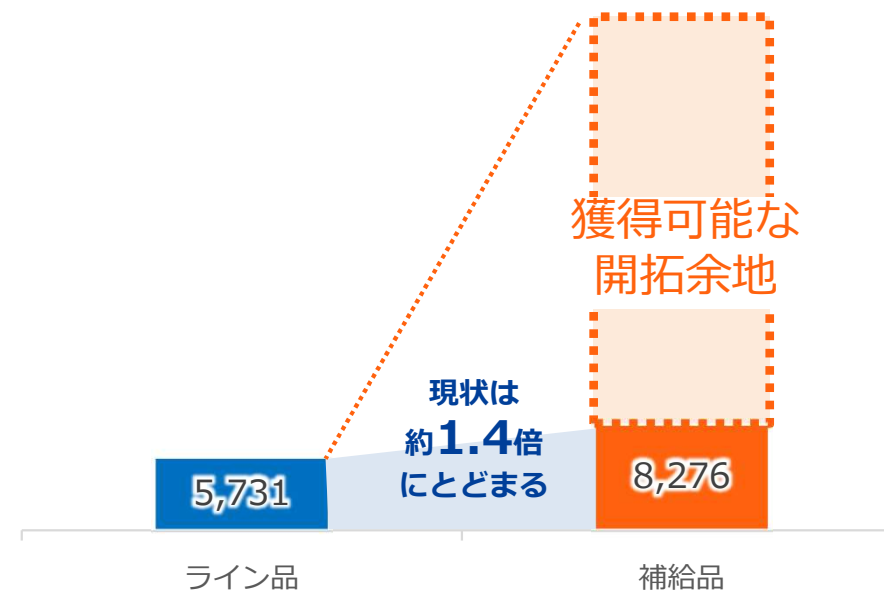
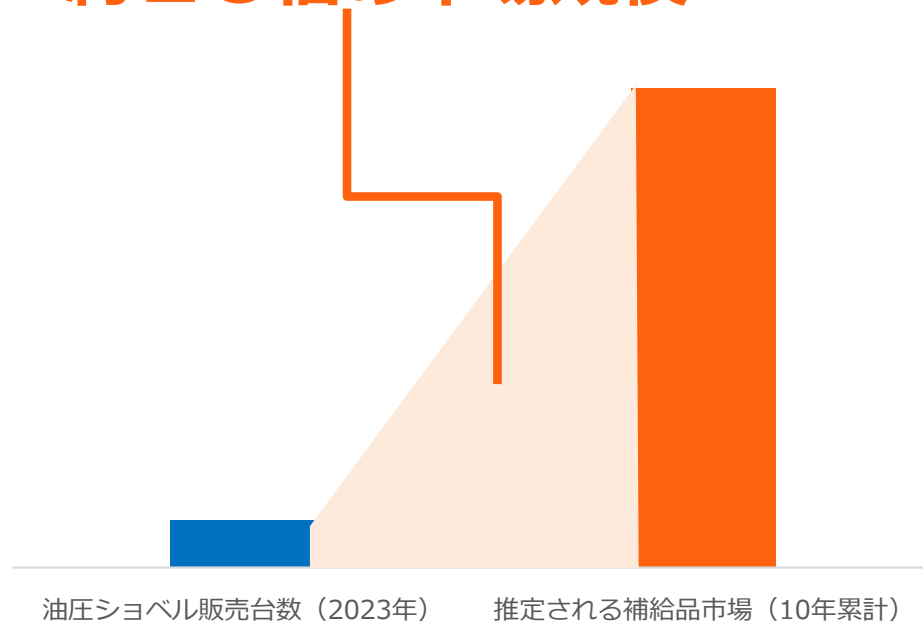
当社のライン品・補給品売上高
24/3期

補給品はライン品の
約**10倍**の市場規模

≠

The Specialist in Filtration
YAMASHIN

当社の補給売上はラインの
約**1.4倍**程度



規制動向や環境ニーズの高い欧州をはじめとする海外市場では、機能性ろ材の需要は強い
地産地消が基本となるエアフィルタにおいて、スピード対応するためろ材販売が最適と判断

フィルタ素材に求める機能性の高まり

環境規制のトレンド

- PFAS※1規制強化
- ZEB※2認証

半導体製造の技術トレンド

- ボロン※3汚染への対応

エアフィルタ市場

HVAC※4用フィルタ全世界
67.2億米ドル (2024年)
年平均成長率**6.9%** ※5

NanoWHELPシリーズのろ材販売

ガラス繊維ろ材にかわる不織布ろ材

| 製品用途 | 製品特徴 |
|-------------|-----------------------------------|
| 中高性能エアフィルタ用 | 省エネ性能 低CO2排出 PFAS・PFOSフリー※1 |

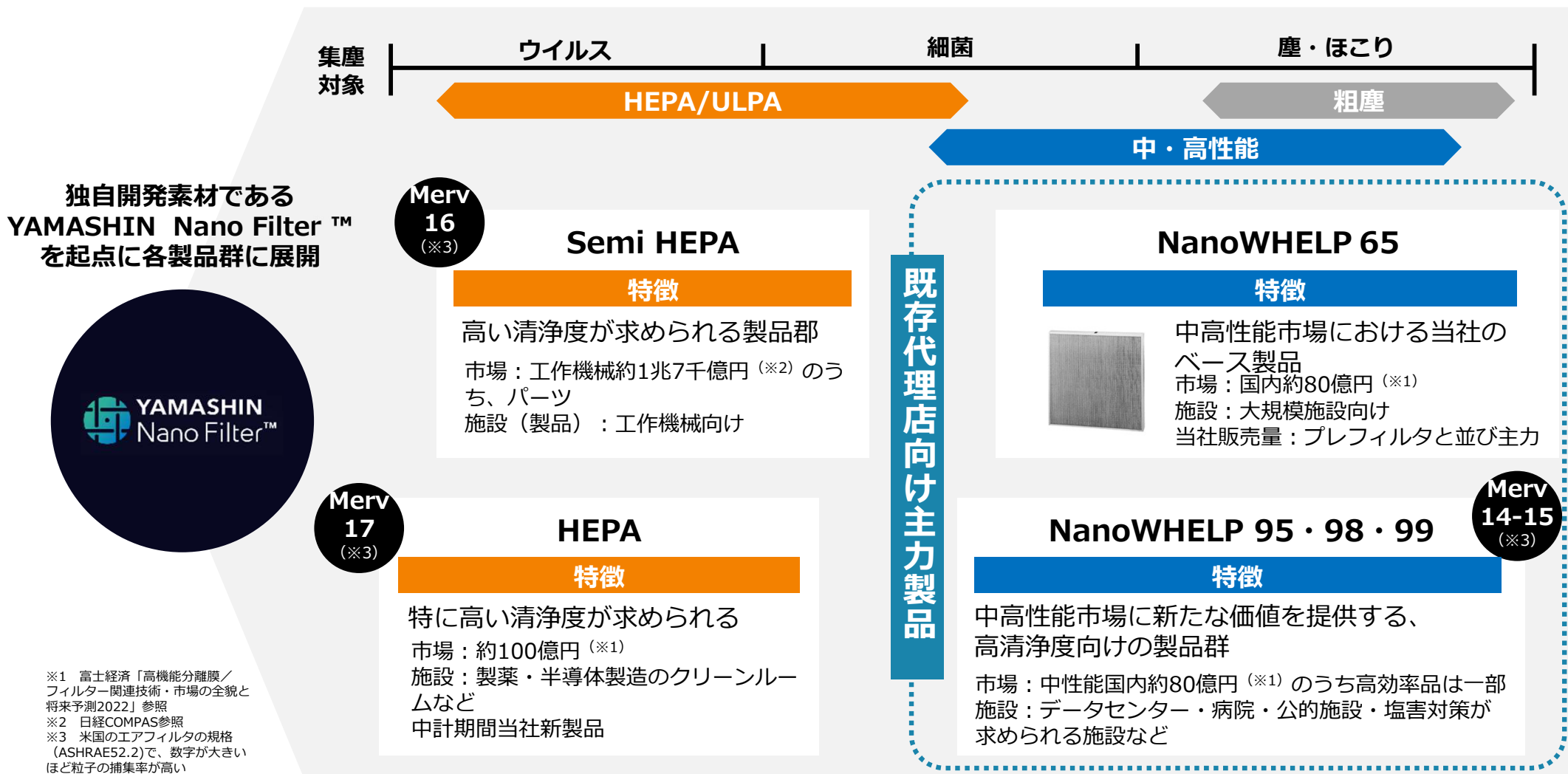
Nano Air (HEPA) シリーズのろ材販売

ガラス繊維ろ材にかわる不織布ろ材

| 製品用途 | 製品特徴 |
|---|---------------------------------|
| 特に高い清浄度が求められる環境向け 製薬・半導体製造のクリーンルームなど | PFAS・PFOSフリー※1 ボロンフリー※3の不織布型 |

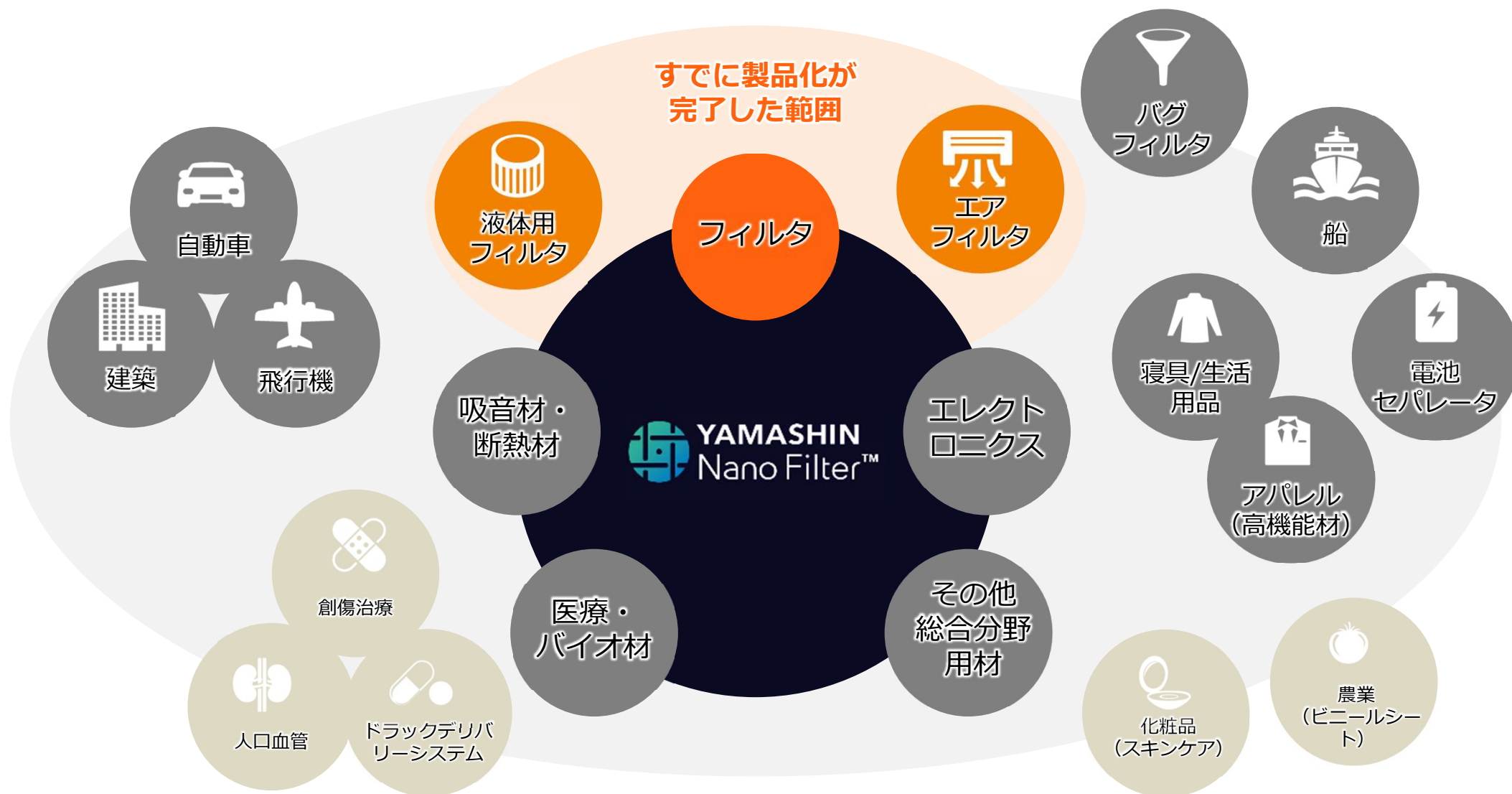
- ※1 有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物を総称して「PFAS」と呼び、代表例として、PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）がある。難分解性、高蓄積性、長距離移動性という性質がある
- ※2 Net Zero Energy Buildingの略称。建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロとすることを目指した建物
- ※3 ホウ素のこと。半導体特性に影響を与えてしまうため、半導体工場では避けられる。
- ※4 冷暖房等の空調システム。
- ※5 出典：Research and Markets

独自開発のナノファイバーろ材を用いたNanoWHELPのラインナップが存在
特徴であるロングライフ化と低い空気抵抗による省エネ・CO2低排出を活かす

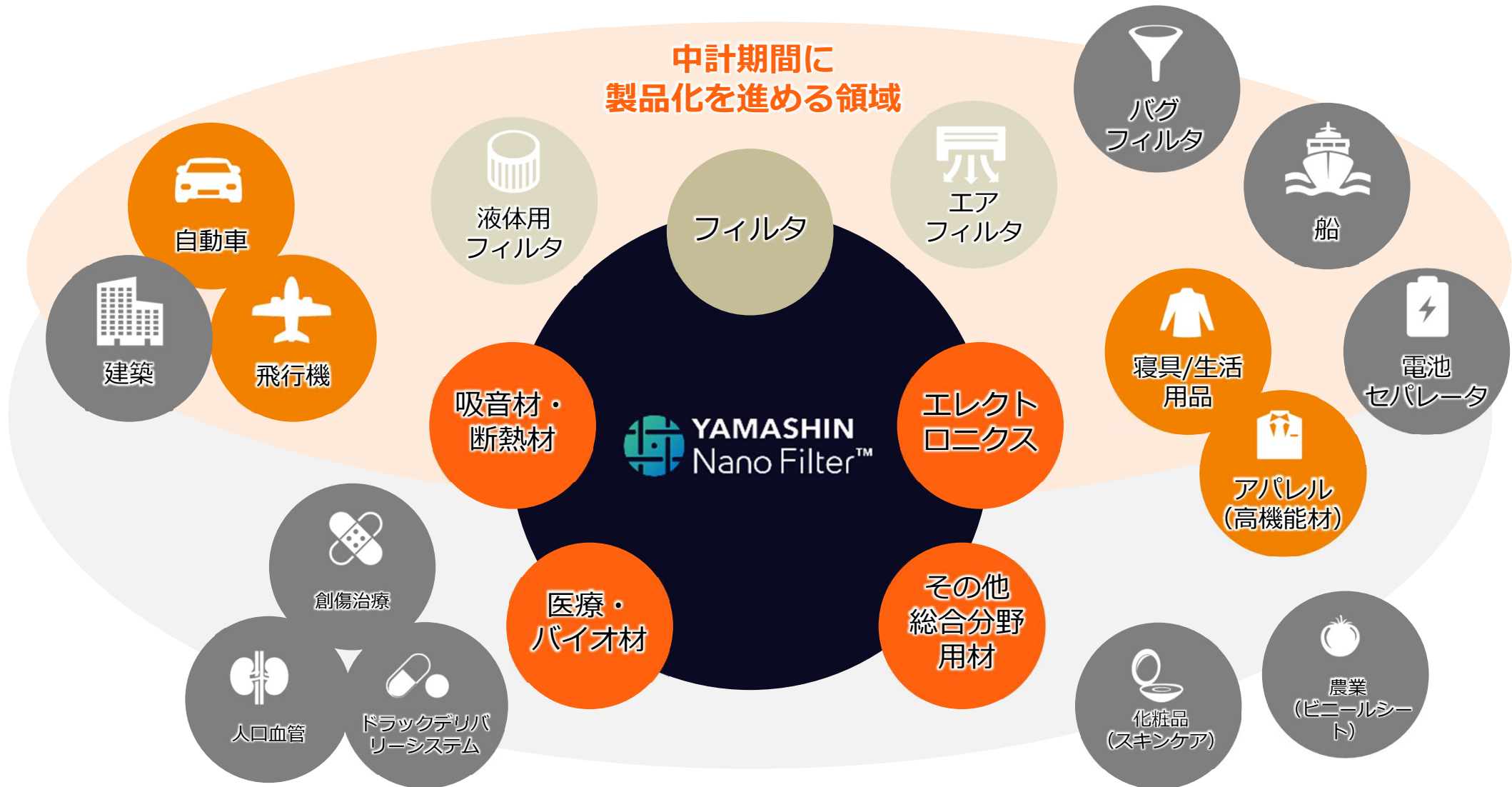


※1 富士経済「高機能分離膜／フィルタ関連技術・市場の全貌と将来予測2022」参照
※2 日経COMPAS参照
※3 米国のエアフィルタの規格 (ASHRAE52.2)で、数字が大きいほど粒子の捕集率が高い

YAMASHIN Nano Filter™は素材として様々な可能性をもっており、
開発以来フィルタ領域におけるろ材としてはすでに新製品開発に成功し実用化



すでに製品化しているフィルタ領域に加えて「断熱・吸音」「エレクトロニクス」分野を軸に自動車・飛行機、アパレル分野への進出を目指す研究開発を進める



YAMASHIN Nano Filter™の特性に加えて+アルファの機能を組み合わせた新素材を開発ターゲットとする

既存特性に付加する機能

既存特性



高空隙性
軽量性
透湿性



付加する価値

耐熱
吸湿発熱
超軽量

想定される市場規模※

全世界・断熱材市場

10兆円
2023年



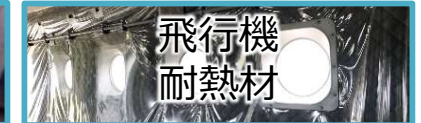
14.6兆円
2028年

※出典：Markets and Markets

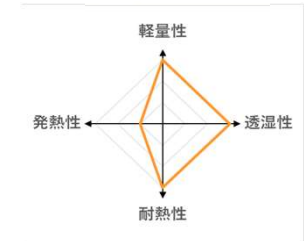
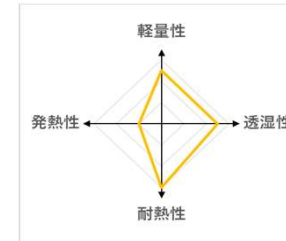
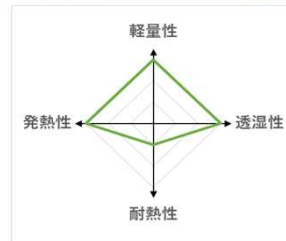
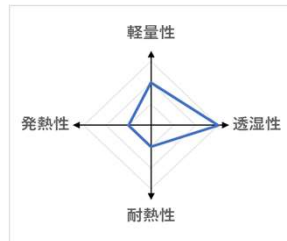
開発STEP1

開発STEP2

ターゲット
となる製品・市場



求められる
機能



カギとなる要素

コスト低減

吸湿発熱・超軽量

高耐熱性能

高耐熱性能

YAMASHIN Nano Filter™の特性に加えて+アルファの機能を組み合わせた新素材を開発ターゲットとする

既存特性に付加する機能

既存特性



高空隙特性
軽量性
透湿性（通気性）



付加する価値

導電性

想定される市場規模※

全世界・スマートテキスタイル

0.88兆円
2024年



2.4兆円
2028年

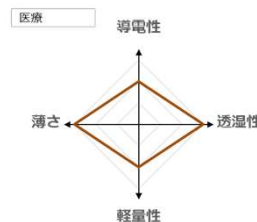
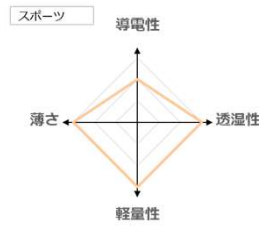
※出典：Markets and Markets

開発STEP1

ターゲット
となる製品・市場



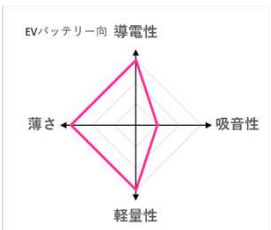
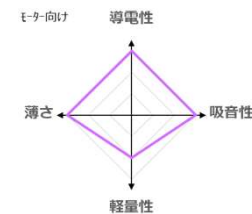
求められる
機能



センサー感度
(繊維の細さ)

センサー感度
(導電性・繊維の細さ)

開発STEP2



高い導電性と吸音性

高い導電性

カギとなる要素

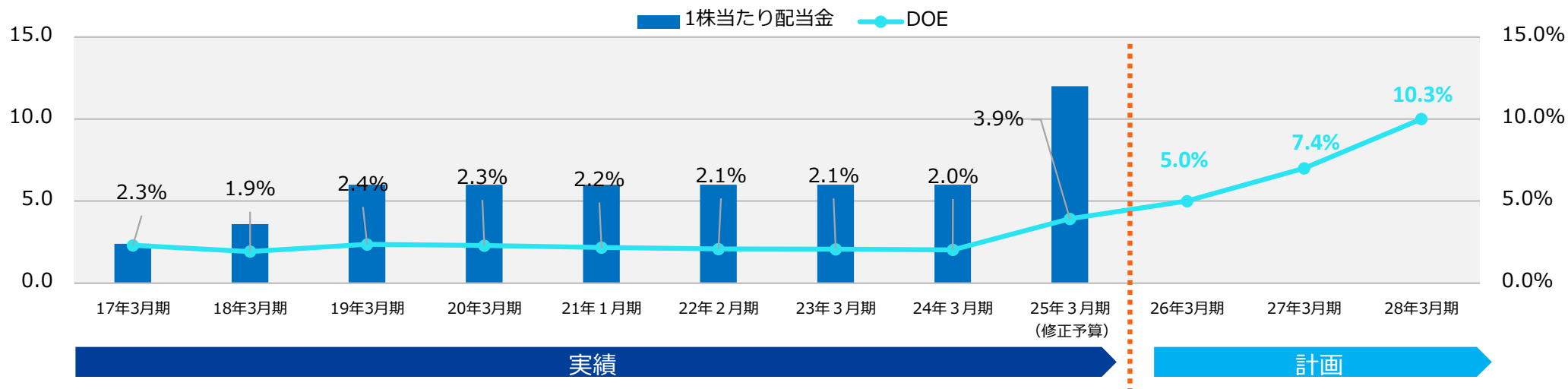
新中期経営計画定量目標

資本政策を抜本的に見直し高い株主還元を目指す 配当方針として2028年3月期DOE10%

※成長投資の必要性を踏まえ実施

| (百万円) | 24年3月期 実績 | 25年3月期 修正予算 | 26年3月期 計画 | 27年3月期 計画 | 28年3月期 計画 |
|-----------|--------------|----------------|--------------|--------------|--------------|
| 1株当たり配当金 | 6円 | 12円 | — | — | — |
| DOE (%) | 2.0 | 3.9 | 5.0 | 7.4 | 10.3 |
| 配当性向 (%) | 54.5 | 57.2 | 58.1 | 72.2 | 82.9 |
| 総還元性向 (%) | 121.0 | 61.2 | 113.5 | 119.3 | 122.0 |

1株当たり配当金推移



新中期経営計画の定量目標（連結）

2025年3月期までに収益改善、経営基盤の強化を完了、
2028年3月期にはMAVY's 2%以上、時価総額1千億円を目指す

| (百万円) | 24年3月期 実績 | 25年3月期 修正予算 | 26年3月期 計画 | 27年3月期 計画 | 28年3月期 計画 |
|-------------------|--------------|----------------|--------------|--------------|---------------|
| 売上高 | 18,024 | 19,300 | 20,420 | 22,030 | 23,790 |
| 営業利益 | 1,411 | 2,220 | 2,720 | 3,220 | 3,875 |
| 営業利益率 (%) | 7.8 | 11.5 | 13.3 | 14.6 | 16.3 |
| MAVY's (%) | △2.6 | △1.4 | 0.2 | 1.3 | 2.9 |
| ROIC (%) | 4.9 | 6.7 | 8.1 | 8.9 | 10.2 |
| WACC (%) | 7.5 | 8.1 | 7.9 | 7.6 | 7.3 |
| EPS (円) | 11 | 21.0 | 27.5 | 33.2 | 41.0 |

建機用フィルタビジネスの収益性は大幅に改善、エアフィルタ事業のROIC改善が取り組むべき課題

建機用フィルタ事業

| (百万円) | 24年3月期 実績 | 25年3月期 修正予算 | 26年3月期 計画 | 27年3月期 計画 | 28年3月期 計画 |
|------------|--------------|----------------|--------------|--------------|---------------|
| 売上高 | 15,382 | 16,500 | 17,520 | 19,030 | 20,690 |
| 営業利益 | 1,320 | 2,100 | 2,600 | 3,070 | 3,710 |
| 営業利益率 (%) | 8.6 | 12.7 | 14.8 | 16.1 | 17.9 |
| ROE (%) | 3.9 | 8.1 | 9.8 | 11.7 | 14.4 |
| MAVY's (%) | △ 1.7 | 0.2 | 1.5 | 2.6 | 4.3 |
| ROIC (%) | 5.8 | 8.3 | 9.4 | 10.2 | 11.6 |
| WACC (%) | 7.5 | 8.1 | 7.9 | 7.6 | 7.3 |

エアフィルタ事業

| (百万円) | 24年3月期 実績 | 25年3月期 修正予算 | 26年3月期 計画 | 27年3月期 計画 | 28年3月期 計画 |
|------------|--------------|----------------|--------------|--------------|--------------|
| 売上高 | 2,642 | 2,800 | 2,900 | 3,000 | 3,100 |
| 営業利益 | 91 | 120 | 120 | 150 | 165 |
| 営業利益率 (%) | 3.5 | 4.3 | 4.1 | 5.0 | 5.3 |
| ROE (%) | 2.4 | 0.3 | 2.3 | 2.8 | 3.0 |
| MAVY's (%) | △ 6.0 | △ 7.8 | △ 5.8 | △ 5.1 | △ 4.6 |
| ROIC (%) | 1.5 | 0.4 | 2.1 | 2.5 | 2.7 |
| WACC (%) | 7.5 | 8.1 | 7.9 | 7.6 | 7.3 |

非財務KPIを設定することで、サステナビリティの取り組みをさらに促進させ、開示文書やCDPを通じたサステナビリティ情報の透明性を向上

2024/3期 実績

ESG投資指数

- FTSEスコア**2.7**
FTSE Blossom Japan Sector
Relative Index初組み入れ
- CDP気候変動スコア**B**

2023/3期 実績

ESG投資指数

- FTSE スコア**1.5**
- CDP気候変動 スコア**D**

2028/3期 目標

ESG投資指数

- FTSEスコア**4.0**以上
- CDP気候変動 スコア**A**取得

目標達成に向けた取り組み

- 1 各種方針の策定
- 2 CO₂削減活動推進
- 3 高付加価値製品
(ロングライフ、
小型化製品等)
の拡販

CDPへの取り組み強化や、ESGデータ（サステナビリティレポートなど）の開示情報の拡充



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL

045-680-1680

E-mail

ir@yamashin-filter.co.jp